

いのちの輝きを見つめる

Meiji

第146期

中間事業報告書

平成16年4月1日～平成16年9月30日

CONTENTS

株主の皆様へ	1
営業の概況（連結）	2
中間連結貸借対照表	6
中間連結損益計算書／中間連結キャッシュ・フロー計算書	7
中間貸借対照表（単独）	8
中間損益計算書（単独）	9
業績の推移／連結対象子会社	10
Meiji News	11
新製品紹介	12
トピックス	14
役員／従業員／主要な事業所	16
株式の状況	17

● 経営の基本方針

当社グループは、「夢と楽しさ、いのちの輝きを大切にし、世界の人々の心豊かなくらしに貢献します」を企業理念に掲げ、「おいしさと健康」を創造するグローバルな企業集団として、これからもお客様にとって価値のある商品・サービス・情報を提供してまいります。

そして、お客様の喜びを大切にすることを第一に、社員一人ひとりの個性も尊重しながら、健全な収益体制のもとで活力ある発展を目指し、社会への責務を果たしてまいります。

● 中期的な経営戦略

当社グループでは「強くて、おもしろい会社」の実現をキーワードとした中期経営計画「チャレンジ2005」を策定し、各事業の売上高拡大と構造改革による体質転換の両面から収益力の強化を進めており、2005年度に、連結売上高4,000億円、経常利益160億円、当期純利益70億円を達成すべく、次の各項目に鋭意取り組んでおります。

1 各カンパニーの事業展開の方向について

- 食料カンパニーでは、チョコレート・キャンデー・ガム・ココア等の各カテゴリーの強化を図るとともに、高付加価値で差別性のある商品分野への事業拡大を積極的に行ってまいります。
- 薬品カンパニーでは、感染症と中枢神経系の2領域に集中・特化した「スペシャリティファーマ」として、その事業基盤をより強固なものにするため、営業力の強化、研究開発のスピードアップ、中国・アジア市場への展開強化等の諸課題に引き続き取り組んでまいります。
- ヘルスケアカンパニーでは、拡大を続ける健康関連市場において確固たる地位を確立すべく、「イソジン」「ザバス」「カラダナビ」ブランドを中心に、食薬兼業の強みを活かした事業展開を進めてまいります。

2 構造改革の実施について

- トータルコストを削減しローコストオペレーションを実現すべく、生産体制の最適化、退職年金制度の見直し、人事・処遇体系の抜本的な見直し、収益還元価値の低い資産の売却、間接業務の集約・効率化等の諸施策を実施してまいります。

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、当社は平成16年9月30日をもちまして、第146期営業年度（平成16年4月1日から平成17年3月31日まで）の上半期を終了いたしましたので、ここに中間事業報告書をお届けし、営業の概況等をご報告申し上げます。

当上半期の業績につきましては、後掲の「営業の概況」に記載のとおりであります。当社グループを取り巻く環境は、食料事業におきましては、原材料の高騰や低価格化の定着に加え、引き続き消費低迷のなかでの競争が激しさを増しており、また、消費者の食品に対する安全・安心面での要求も高いレベルとなっております。薬品事業におきましても、医療費抑制策による薬価の大幅引下げの影響、グローバルな新薬開発競争に伴う研究開発費の増高等、今後も厳しい状況が続くものと予想されます。

こうした状況にあって、当社グループは、さらなる事業発展計画の推進を期し、昨年度、中期経営計画「チャレンジ2005」を策定し、2005年度に過去最高を上回る利益水準を実現するために、大胆な構造改革に鋭意取り組んでおります。

そのため当社グループは、「健康」をキーワードに食料・薬品・ヘルスケアの主力3事業でシナジー効果の共有化による新たなビジネスモデルを確立し、より強固な事業基盤を構築するとともに、海外事業では、特に中国を中心に業容の拡大を図り、収益基盤の強化を目指してまいります。

さて、かねてより建設を進めてまいりました京橋の新本社ビルがこの10月末に完成いたしました。これを機に

社員一同気持ちを新たに一層業務に邁進する所存でございますので、今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

なお、当期の中間配当金につきましては、すでにご案内申し上げましたとおり、1株につき金3円50銭と決定させていただきましたので、なにとぞご了承賜りますようお願い申し上げます。

平成16年12月

代表取締役
取締役会長

北里 一郎

代表取締役
社長

佐藤 尚忠



北里会長

佐藤社長

営業の概況（連結）

（平成16年4月1日から平成16年9月30日まで）

当上半期におけるわが国経済は、堅調な景気回復を続け、企業収益や民間の設備投資は顕著な増勢を示し、個人消費も緩やかな改善傾向を辿っていますが、期初の輸出や生産の伸びが鈍化し始めており、また、原材料の高騰等も加わり、先行きに不透明感が漂う環境下に推移しました。

一方、海外におきましては、世界経済は着実に回復傾向にあるものの、米国・中国の金融引き締め政策が顕在化し始めており、景気の減速が懸念される状況下に推移しました。

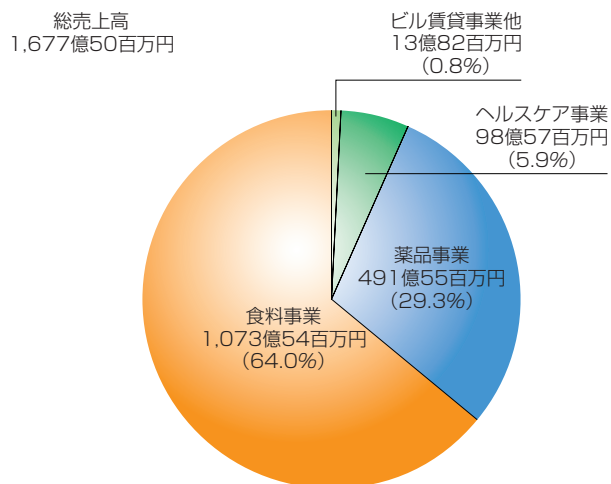
このような事業環境下、当社グループは、「市場競争力の強化による事業拡大」「収益力強化につながる体質改善・コストダウン」を主な経営方針に掲げ、各事業分野にわたり強靱な企業体質の確立と売上の拡大および収益力の向上に努めましたが、大幅な減収を余儀なくされました。

この結果、連結売上高は1,677億50百万円（前年同期比2.5%減）となり、また、事業構造改善費用を特別損失に計上したため、連結中間純損失31億19百万円（前年同期連結中間純損失10億13百万円）となりました。

当社グループのセグメント別売上高の状況は下のグラフのとおりであります。

なお、当上半期の連結対象子会社は、10ページに記載しております。

●売上高構成比（当上半期）



食料事業におきましては、市場の低迷に加え、期前半からの異常気象による需要の減退や低価格化の定着等で極めて厳しい事業環境下に推移しました。

このような状況のなか、当社グループは、消費者ニーズとトレンドを先取りした差別優位性のある新商品開発や戦略的なブランド別トータルマーケティング諸施策の展開により売上の拡大に努めましたが、本年4月より菓子卸店との取引制度の変更による減売要因も加わり、連結売上高は1,073億54百万円（前年同期比3.5%減）となりました。



菓子について品種別にみますと、チョコレートは、重点商品を中心に積極的な販促活動を展開しましたが、記録的な猛暑や競合品との競争激化で減

売となりました。主力の「ミルクチョコレート」と「ブラックチョコレート」はカカオ成分の健康訴求による需要喚起を図り、順調に推移しましたが、「アーモンドチョコレート」はナッツ系市場の低迷で減売を余儀なくされました。チョコスナックの「きのこの山」「たけのこの里」は積極的な販促キャンペーンに加え、新規の季節限定商品を投入して前年同期並みの売上を確保しました。また、「フラン」は新商品「リッチフラン」を追加して、品揃えの拡充とブランドの活性化を図

っております。なお、本年9月に新商品「ショパン」「うすまきアーモンド」を発売して、売上に寄与しました。

キャンデーは、主力の「チェルシー」が競争激化で苦戦を強いられましたが、グミは新商品の発売などにより堅調に推移しました。

キャンデーは、主力の「チェルシー」が競争激化で苦戦を強いられましたが、グミは新商品の発売などにより堅調に推移しました。



ガムは、主力の「キシリッシュ」はボトルタイプが好調に推移したことに加え、「梅ミント」を投入して、販路拡大に務めるなど積極的なマーケティング活動を展開し、前年同期並みを確保しました。



スナックは、主力の「カール」袋タイプは販促キャンペーンにより順調に伸長しましたが、全体としては競合品との競争激化で減売となりました。

ビスケットは、「マクビティ」および「コパン」にリニューアル品を投入し、

総じて堅調に推移しました。

なお、P&G社との提携商品「プリングルズ」およびファイザー株式会社との提携商品「薬用リスティンポケットパック」は、販売開始後1年が経過しましたが、売上は安定的に推移しております。

一方、海外連結子会社の業績につきましては、明治製菓シンガポール社は、現地市場での積極的な販促活動の展開により、売上は前年同期並みを確保しており、スタウファー・ビスケット社も米国内の販路拡大策が順調に進捗し、売上は堅調に推移しました。

■菓子主要製品

チョコレート（ミルクチョコレート、チョコレート効果、ブラック、ストロベリー、メルティーキッス、ポルテ、アーモンド、アーモンドクラスト、マカダミア、うすまきアーモンド、フラン、きのこの山、たけのこの里、ホルン、ガルボ、レガ、ボーダ、ショパン、ブッカ、アポロ、マーブル、チョコベビー、プチアソートほか）、キャラメル、キャンデー（チェルシー、ヨーグレット、ハイレモン、果汁グミ、ポイフル、キュン、もぎもぎフルーツほか）、ガム（キシリッシュほか）、スナック（カール、カールスティック、北海道ポテト、ピックアップほか）、ビスケット（マクビティ、コパンほか）



食品について品種別にみますと、ココアは、消費者にその健康効果が認知され市場が拡大するなか、主力の「ミルクココア」に新商品「おいしいココア」を

追加し、引き続き堅調に推移しました。なお、昨年8月発売の高ポリフェノール含有商品「テオプロ」も新規格品を追加して市場の拡大を図っております。

レトルトカレーは、市場の低迷と低価格化のなか、主力の「銀座カリー」シリーズはブランド力強



化のための店頭販促活動が奏効し、順調に売上を伸ばしました。



健康食品は、企業間競争が激化するなか、主力の「パーフェクトプラス」シリーズに新商品とリニューアル品を投入し、堅調に推移しました。

一方、業務用食材は、新販路の開拓に努めましたが、競争の激化で減売を余儀なくされました。

なお、国内連結子会社が販売する砂糖につきましては、主要取引先との取引条件の変更により減売を余儀なくされました。

■食品主要製品

嗜好飲料(テオプロ、ミルクココア・おいしいココアほか)、レトルトカレー（銀座カリー・銀座赤カリー・銀座黒カリーほか）、健康食品（パーフェクトプラスほか）、調理食品（JALスープほか）、清涼飲料、農産缶詰、業務用食材、砂糖、糖化製品

薬品事業におきましては、本年4月に実施された業界平均4.2%の薬価引下げなど医療費抑制策の浸透、新薬開発を巡る競争激化や研究開発費の増大、さらには国内市場における外資系製薬企業の攻勢などにより、業界環境は一層厳しい状況となっております。

また、農薬・動物薬におきましても、市場の縮小による企業間競争の激化に加え、抗生物質の適正使用の徹底等、行政による規制も一段と強化され、厳しい事業環境に終始しました。

このような状況下、当社グループは主力製品を中心に積極的な営業活動および学術普及活動を展開しましたが、連結売上高は491億55百万円（前年同期比0.7%減）となりました。

内容別にみますと、医療用医薬品におきましては、主力の抗菌薬では、市場が縮小するなか、主力製品の「メイアクト」は新製品「メイアクトMS小児用細粒」を追加して堅調に推移し、ニューキノロン系経口抗菌薬「スオード」も競合品との激しい競争にあって、着実な学術普及活動により前年同期を上回る売上を確保しました。また、カルバペネム系注射薬「オメガシン」は着実な市場開拓を行い、好調に推移しました。一方、「ハベカシン」「ホスミシン」は薬価引下げの影響と競争激化により減売を余儀なくされました。

中枢神経系用薬におきましては、着実な学術普及活動により、抗うつ薬「デプロメール」が引き続き順調に推移し、抗不安薬「メイラックス」も好調に伸長しました。

その他の医療用医薬品では、アレルギー性疾患治療薬「エバステル」は堅調に推移しましたが、外用消毒薬「イソジン」は薬価引下げと競争激化により減売となりました。



農薬は、水稻の減反政策等厳しい環境下において、着実な販促活動により前年同期を上回る売上を確保しました。主力のいもち病防除剤「オリゼメート」は、昨年のいもち病の多発により生産者の防除意欲が高まり、大幅な増売となりました。一方、除草剤「ハービー」は競争激化により減売となりました。

動物薬は、既製品の堅調な推移に加え、本年6月に第一製薬株式会社より動物薬事業を譲り受け、その売上が大きく寄与し、大幅な増売となりました。

輸出につきましては、好採算品目に絞り込んだ営業展開と国際戦略製品「メイアクト」の拡売に取り組みましたが、世界的な医療費抑制策強化の影響を受け、減売となりました。

なお、国内連結子会社の主な売上品目はワクチンと化成品等ではありますが、ワクチンは製品改良等により主力品の売上が大幅に伸長し、順調に推移しました。また、化成品は積極的な販促活動が取引先の拡大につながり増売となりました。

一方、海外連結子会社の業績につきましては、タイ・メイジ社は、現地市場での積極的な販促活動により好調に推移しました。P.T.メイジ・インドネシア社は、現地市場での販売は順調に推移しましたが、輸出減をカバーできず全体では減売となりました。また、スペインのテデッカー・メイジ・ファルマ社は、主力製品が薬価引下げの影響を受け減売となりました。

■薬品主要製品

医療用 医薬品	抗菌薬（メイアクト、ホスミシン、ハベカシン、スオード、オメガシン、シプロキササンほか）、中枢神経系用薬（抗うつ薬デプロメール、抗不安薬メイラックス）、その他の医療用医薬品（外用消毒薬イソジン、アレルギー性疾患治療薬エバステル、抗悪性腫瘍薬テラルピシン、抗ウイルス化学療法薬ピクロックスほか）、人体用ワクチン、化成品
農薬 動物薬	農薬（Dr.オリゼプリンス、オリゼメート、ハービー、ジベレリン、アグレプトほか）、動物薬（メイボール、メイリッチ、パコマ、マイコバスター、ポセイドン、小動物用薬品ほか）、飼料添加物（コリスチン、セルラーゼほか）

ヘルスケア事業におきましては、健康食品は、消費者の健康維持に対する関心の高まりから市場は拡大しておりますが、新規参入企業も多く、開発・販売競争が激化する事業環境となりました。

また、一般用医薬品は、市場の縮小と価格の下落傾向のなか、企業間の事業統合の動きも表面化しており、シェア獲得競争が一段と激しくなる状況下に推移しました。



このような状況下、当社グループは多様な消費者ニーズに応じた新商品の開発と、主力品のブランド力向上のためのマーケティング活動を展開しました結果、連結売上高は98億57百万円（前年同期比1.6%増）となりました。

内容別にみますと、健康食品は消費者の健康志向の高まりから、主力の「ザバス」は、消費者へのブランド認知向上のための販促活動の展開に加え、積極的な新商品の投入が奏効して売上は好調に推移しました。また、「アミノコラーゲン」もアイテム数の拡充とマーケティング活動の強化により大幅に伸ばしましたが、「ローラ」は競合品との競争激化で減売となりました。なお、シニア市場をターゲットにしたサプリメント「カラダナビ」シリーズは苦戦を強いられましたが、着実な普及活動を展開して市場の拡大に努めております。



一方、一般用医薬品におきましては、主力の「イソジン」各種製剤は価格競争が激化するなか、うがい・手洗いの啓蒙普及活動と宣伝・販促キャンペーンが奏効し、前年同期並みの売上を確保しました。また、ミニドリンク剤「活蔘（かつじん）28」は、効果的な店頭販促活動により、その効能が消費者に認知され好調に推移しました。

なお、国内連結子会社の事業はスポーツクラブ施設の経営です



が、厳しい環境のなか、新店舗の開設に加え、集客力と顧客満足度の向上に積極的に努め、売上は順調に推移しました。

■ヘルスケア主要製品

健康食品（カラダナビ、ザバス、ローラ、アミノコラーゲン、パーフェクトプラス、プロテインダイエットほか）、一般用医薬品（イソジンうがい薬、イソジンのどフレッシュF、外用消毒薬イソジンS、水虫・たむし治療薬バイクリアプラス、解熱鎮痛薬バイエルアスピリン、明治Gトローチ、かぜ薬ヘルビックス顆粒、ミニドリンク剤活蔘28ほか）

ビル賃貸事業他

ビル賃貸事業他につきましては、大規模ビルの供給過剰による賃貸料の下落に加え、テナント企業の退去や事業縮小の影響もあり、主力のオフィスビル「ソリッドスクエア」の入居率が低下するなど、厳しい環境下に推移しました。

この結果、ビル賃貸事業他の収入は13億82百万円（前年同期比10.8%減）となりました。

（注）従来、「食料事業」「薬品事業」「ヘルスケア事業」「ビル賃貸事業」「その他事業」の5事業に区分しておりましたが、「その他事業」の重要性が低下したため、当上半期より「その他事業」は「ビル賃貸事業他」に含めて記載しております。

中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当中間期 <small>(平成16年9月30日現在)</small>	前 期 <small>(平成16年3月31日現在)</small>	科 目	当中間期 <small>(平成16年9月30日現在)</small>	前 期 <small>(平成16年3月31日現在)</small>
資産の部	329,906	330,059	負債の部	177,787	173,068
流動資産	151,075	154,610	流動負債	85,021	95,052
現金および預金	21,290	11,271	支払手形および買掛金	24,820	27,339
受取手形および売掛金	66,390	74,034	短期借入金	23,895	20,110
棚卸資産	48,397	51,231	コマーシャルペーパー	-	4,000
繰延税金資産	4,961	5,172	未払費用	10,879	12,149
その他の流動資産	10,093	12,961	未払法人税等	910	4,305
貸倒引当金	△ 57	△ 60	賞与引当金	5,008	5,107
固定資産	178,830	175,448	売上割戻引当金	3,767	5,550
有形固定資産	142,056	138,821	その他の流動負債	15,738	16,490
建物および構築物	70,819	69,303	固定負債	92,766	78,015
機械装置および運搬具	37,613	33,852	社 債	40,000	20,000
工具器具備品	2,354	2,406	長期借入金	17,638	22,542
土地	25,119	25,106	長期繰延税金負債	11,331	13,105
建設仮勘定	6,150	8,152	退職給付引当金	19,438	17,959
無形固定資産	4,228	3,457	役員退職慰労引当金	471	422
連結調整勘定	2,111	2,161	その他の固定負債	3,886	3,986
その他の無形固定資産	2,117	1,296	少数株主持分	2,474	2,441
投資その他の資産	32,545	33,169	資本の部	149,643	154,549
投資有価証券	28,507	28,949	資本金	28,363	28,363
長期繰延税金資産	217	242	資本剰余金	34,937	34,935
その他の投資	4,788	4,962	利益剰余金	80,076	84,575
貸倒引当金	△ 967	△ 984	その他有価証券評価差額金	8,783	9,133
資産合計	329,906	330,059	為替換算調整勘定	△ 1,428	△ 1,355
			自己株式	△ 1,088	△ 1,103
			負債・少数株主持分および資本合計	329,906	330,059

(注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 211,929百万円 207,656百万円
 2. 受取手形割引高 34百万円 18百万円
 (備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当中間期 (平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで)	前中間期 (平成15年4月1日から 平成15年9月30日まで)
売上高	167,750	172,013
売上原価	96,568	99,966
売上総利益	71,181	72,047
販売費および一般管理費	69,344	69,713
連結調整勘定償却額	67	47
営業利益	1,769	2,286
営業外収益	1,195	1,586
受取利息・配当金	355	281
雑収入	791	1,278
持分法による投資利益	48	26
営業外費用	973	1,162
支払利息	589	668
雑損	383	494
経常利益	1,992	2,710
特別利益	396	965
投資有価証券売却益	182	533
固定資産売却益	186	361
その他の特別利益	27	70
特別損失	6,397	4,258
事業構造改善費用	5,565	3,788
固定資産廃棄損	373	338
その他の特別損失	459	131
税金等調整前中間純損失	4,008	582
法人税、住民税および事業税	730	609
過年度法人税等戻入額	505	283
法人税等調整額	△1,290	△47
少数株主利益	176	151
中間純損失	3,119	1,013

(注) 1株当たりの中間純損失 8円14銭 2円63銭
 (備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当中間期 (平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで)	前中間期 (平成15年4月1日から 平成15年9月30日まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	6,434	△541
投資活動による キャッシュ・フロー	△9,988	△4,145
財務活動による キャッシュ・フロー	13,544	△1,748
現金および 現金同等物に係る換算差額	67	211
現金および 現金同等物の増減額(減少：△)	10,057	△6,223
現金および 現金同等物の期首残高	10,688	15,290
新規連結による現金 および現金同等物の増加額	-	103
現金および 現金同等物の中間期末残高	20,746	9,170

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間貸借対照表(単独)

(単位：百万円)

科 目	当中間期 <small>(平成16年 9月30日現在)</small>	前 期 <small>(平成16年 3月31日現在)</small>	科 目	当中間期 <small>(平成16年 9月30日現在)</small>	前 期 <small>(平成16年 3月31日現在)</small>
資産の部	299,582	298,881	負債の部	156,021	150,850
流動資産	126,361	128,966	流動負債	65,733	77,946
現金および預金	15,550	5,551	支払手形および買掛金	20,879	22,738
受取手形および売掛金	54,031	61,869	短期借入金	14,959	13,059
製品・半製品	23,388	27,114	コマーシャルペーパー	—	4,000
原材料	8,968	7,549	未払金	8,771	7,522
仕掛品	8,657	9,070	未払費用	8,201	9,812
繰延税金資産	4,011	4,252	未払法人税等	209	3,427
その他の流動資産	11,765	13,578	賞与引当金	4,042	4,188
貸倒引当金	△ 12	△ 21	返品調整引当金	60	60
固定資産	173,221	169,915	売上割戻引当金	3,767	5,550
有形固定資産	125,377	122,414	その他の流動負債	4,843	7,587
建物および構築物	65,164	63,820	固定負債	90,287	72,904
機械装置	30,393	26,530	社債	40,000	20,000
車両運搬具	56	57	長期借入金	16,526	18,742
工具器具備品	1,985	2,035	長期繰延税金負債	10,944	12,724
土地	21,951	21,966	退職給付引当金	18,699	17,199
建設仮勘定	5,826	8,002	役員退職慰労引当金	400	357
無形固定資産	1,481	632	その他の固定負債	3,717	3,880
投資その他の資産	46,362	46,869	資本の部	143,561	148,031
投資有価証券	25,689	26,417	資本金	28,363	28,363
関係会社株式	16,407	16,084	資本剰余金	34,937	34,935
出資金	457	567	資本準備金	34,935	34,935
関係会社出資金	1,482	1,409	その他資本剰余金	2	—
長期貸付金	1,411	1,494	利益剰余金	72,721	76,855
その他の投資	1,879	1,874	利益準備金	7,090	7,090
貸倒引当金	△ 966	△ 977	任意積立金	65,552	66,731
			固定資産圧縮積立金	23,052	24,231
資産合計	299,582	298,881	別途積立金	42,500	42,500
			中間(当期)未処分利益	77	3,033
			株式等評価差額金	8,627	8,980
			自己株式	△ 1,088	△ 1,103
			負債および資本合計	299,582	298,881

(注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 190,721百万円 187,216百万円
 2. 受取手形割引高 34百万円 18百万円
 (備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間損益計算書(単独)

(単位：百万円)

科 目	当 中 間 期 (平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで)	前 中 間 期 (平成15年4月1日から 平成15年9月30日まで)
(経常損益の部)		
営業損益の部		
営業収益	120,708	124,288
売上高	120,708	124,288
営業費用	120,592	123,647
売上原価	58,597	60,888
返品調整引当金戻入額	—	10
販売費および一般管理費	61,994	62,769
営業利益	116	640
営業外損益の部		
営業外収益	1,933	2,249
受取利息・配当金	1,029	960
雑収入	904	1,289
営業外費用	774	973
支払利息	494	529
雑損	279	444
経常利益	1,276	1,916
(特別損益の部)		
特別利益	388	922
投資有価証券売却益	182	533
固定資産売却益	183	357
その他の特別利益	22	32
特別損失	6,162	4,142
事業構造改善費用	5,443	3,788
固定資産廃棄損	346	326
その他の特別損失	373	27
税引前中間純損失	4,497	1,302
法人税、住民税および事業税	65	68
過年度法人税等戻入額	505	283
法人税等調整額	△ 1,293	△ 81
中間純損失	2,763	1,006
前期繰越利益	2,841	2,409
中間未処分利益	77	1,403

(注) 1株当たりの中間純損失

7円21銭

2円61銭

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

THE SPORTS FOODS
ZAVAS

アテネ五輪に 「ザバス」も活躍

当社が誇るスポーツ栄養の草分けブランド「ザバス」には、栄養指導を担う部隊として、スポーツ&ニュートリション (SN) ラボがあります。SNラボに在籍する9人の栄養アドバイザーは、プロ選手や日本代表選手に対してザバスを用いた栄養指導を行って成功事例を生み出し、そこで得たノウハウを商品開発に生かすとともに、スポーツ愛好家や一般の方々の栄養指導にも生かしています。今年のアテネオリンピックでは、柔道を中心に、サッカー、レスリング、女子バスケットボールの栄養担当を務め、日本選手団の躍進を支えました。特に柔道では、栄養担当2名で、選手が朝食と夕食を摂る選手村食堂のモデルメニューを作成し(写真)、また、練習後の昼食をおいしい和食中心で作ってリラックスしていただいたり、試合当日のお弁当も作り、メダルラッシュといった輝やかな成果のお手伝いすることができました。



モデルメニューを作るザバスSNラボスタッフ

あしたへ Open! 本社ビル完成!

当社は、かねてより旧京橋本社跡地に新本社ビルの建設を進めてまいりましたが、このたび竣工を迎え、新しいビル(名称: 明治製菓ビルディング)に本社機能を移転し、本年11月24日より営業を開始いたしました。無事竣工にいたしましたことは、皆様の絶大なるご支援の賜物と深く感謝いたしております。

新しい本社ビルは、耐震性を高めるとともに、停電時の自家発電機能などで、24時間の自立性を確保するなど、災害への対応を十分に考慮しています。また、自動調光機能や夜間蓄熱などの省エネルギー対策、屋上緑化や雨水の再利用など、環境への配慮も十分に行っています。1階にはレストランやカフェもあり、地域の活性化に寄与できる明るいイメージのビルとなっています。川崎のソリッドスクエアほかに分散していた本社機能が一カ所に集中し、一層の効率化が期待されています。あしたへOpen! 明治製菓の輝く未来へ第一歩を踏み出しました。社員一同、心新



京橋新社屋

たに業務に邁進してまいりますので、今後ともお引き立てを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

【明治製菓ビルディングの概要】

敷地面積：2,211㎡ (669坪)
建築面積：1,890㎡ (572坪)
延床面積：25,475㎡ (7,706坪)
高 さ：54.52m
階 数：地下3階 地上12階

菓子・食品

●うすまきアーモンド

厳選した香ばしいアーモンドをまるごとうす焼き生地で幾重にも巻き、ミルクチョコで包んだチョコレートです。独特の“空気感”のある食感が特徴です。



●ショパン

チョコレートのカップにプラリネチョコを入れ、パリッとした二度焼きのパイを乗せました。プラリネのまろやかな口どけとパリッとしたパイの食感が絶妙なデザートチョコです。



●リッチフラン 粒果肉の森イチゴ

ホイップしたミルク感たっぷりのホワイトチョコに、フリーズドライのイチゴ果肉が入ったストロベリーチョコをコートしました。混ぜり合う2つのチョコと、さくさくのココアビスケットとの組み合わせが素敵なフランです。



●リッチフラン 粒挽きアーモンド

ヘーゼルナッツとアーモンドを練り込んでホイップしたナッツチョコに、香ばしい粒挽きアーモンド入りのビターチョコをコートしました。混ぜり合う2つのチョコと、さくさくのココアビスケットとの組み合わせがぜいたくなフランです。



●たけのこの里 スイートポテト (期間限定品)

スイートポテト風味のチョコの上にもろやかなミルクチョコをかぶせ、サクリ香ばしいクッキーを組み合わせたたけのこの里です。オフィスや自宅のテーブルにも置きやすい、リクローズできるパッケージです。



●おいしいココア

独自製法でカカオ本来の豊かな香りとココが味わえる牛乳用ココアです。冷たい牛乳にも簡単に溶ける通年タイプ（業界初）。牛乳との健康相性を考え、ビタミンD、フラクトオリゴ糖配合。



●銀座黒カリー

銀座カリーのソースをベースにココとうまみを際立たせた銀座ブランドのとおきメニューです。黒の秘密はじっくり時間をかけて炒めた玉葱、隠し味の黒ごまとココアです。



●銀座赤カリー

銀座ハヤシで使っているドミグラスソースをベースに赤ワインとトマト、りんごで仕上げた芳醇な味わいが楽しめる銀座ブランドのとおきメニューです。



薬品

●レザフィリン

腫瘍になじむ光感受性物質で、「光線力学的療法」と呼ばれる治療法に用いて肺がんを治療するものです。静脈内に投与した後、レザフィリンが集積されたがん病変部位にレーザ光を照射することによって光化学反応を生じさせ、がん細胞を死滅させるユニークな薬理作用をもっています。

【参考】

光線力学的療法は、外科的手術に比べ身体への侵襲が少なく、肺機能の温存が可能なことから、高齢者の方や病変部位の機能低下が見られる患者様に対し、有用性の高い治療法とされています。



ヘルスケア製品

●ザバス

アミノ2000クイックショット

トレーニングで酷使したアスリートのすばやいリカバリーのために、吸収のしやすいアミノ酸源「ペプチド」を配合。必須アミノ酸を完全なバランスで含む大豆ペプチドに、アミノ酸（BCAA、グルタミン、アルギニン）を配合しました。1包で2,000mgのアミノ酸を摂取することができます。薬局・薬店・スポーツ店で求められます。



●カラダナビ 日常プラン

特濃カルシウム&マグネシウム

日本人に不足しがちなカルシウムに加え、カルシウムの量に応じてバランスよく補給することが大切なマグネシウムもたっぷり。ふたつの主要ミネラルを豊富に配合したソフトキャンデータイプで、水なしで手軽においしく摂れます。骨密度が気になり始めた方などにおすすめです。薬局・薬店で求められます。



●ザバス

プロテイン タイプ1 ネオストレンクス

爆発・瞬発系トレーニングで筋量と筋力アップを目指すアスリート向けの商品です。アミノ酸バランスの良いホエイプロテインを使用しました。また筋肉増強に欠かせないグルタミンを強化し、さらに11種類のビタミン、カルシウム、鉄、マグネシウムを配合しました。飲みやすいヨーグルト風味で新登場です。薬局・薬店・スポーツ店で求められます。



東京駅八重洲北口にMeiji「チョコスク」登場！

東日本キヨスク株式会社とのコラボレーションにより、東京駅八重洲北口に綺麗でおしゃれなKIOSK「チョコスク」が本年9月30日にオープンしました。「チョコスク」は東京駅の新しいランドマークとしてふさわしく、若い女性でも気楽に立ち寄れるよう上品なゴールドを基調としたハイクオリティなイメージで演出しています。また、店舗自体をひとつのメディアとして位置付け、大型プラズマディスプレイなどでブランドメッセージや様々な素敵な情報を発信していくことを目指しています。

なお、開店当日はオープニングセレモニーを行い、当社新商品「うすまきアーモンド」のCMに出演中の女優米倉涼子さんを一日店長としてお招きし、マスコミ等でも大きく取り上げられました。



オープニングセレモニー



うつ病治療薬「ミルタザピン」のライセンス権を取得

当社は、今春、日本オルガノン株式会社とライセンス契約を締結し、うつ病治療薬である「ミルタザピン（一般名）」の日本国内における共同開発・共同販売権を獲得しました。「ミルタザピン」はノルアドレナリン作動性・特異的セロトニン作動性抗うつ薬（NaSSA: Noradrenergic and Specific Serotonergic Antidepressant）と称され、その作用機序は現在国内で主流となっている選択的セロトニン再取り込み阻害薬（SSRI）や、セロトニン、ノルアドレナリン再取り込み阻害薬（SNRI）とは異なり、抗うつ効果の発現が早く、また、従来の抗うつ薬の主な副作用である悪心・嘔吐等が少ないなどの特徴があるとされています。

今回の契約締結は、当社の重点領域である中枢神経系領域における製品ラインナップの一層の強化・充実を図ることとなります。今後はライセンス元である日本オルガノン株式会社と共同開発を実施し、一日も早い発売を目指してまいります。



アンチエイジング・サプリメントの「カラダナビ」

昨年9月に発売しました「カラダナビ」ブランドは、団塊世代（アクティブシニア）を中心とした40～60歳台を主要顧客と捉えた商品群です。

「カラダナビ」は、当社が薬品事業と食料事業で培った「確かな効果とおしさ」に関するノウハウを背景に、カラダを本来あるべき健康な状態へナビゲートしていく、総合ヘルスケアブランドです。

メインとなる商品の「プレサプリ」は、フラクトオリゴ糖と各種の抗酸化作用物質から構成され、加齢により機能が低下する腸管や血管を健康な状態に維持することで、健康を保つ機能の低下予防商品です。

今春からはテレビCMにタレントの樋口可南子さんを起用して、「アンチエイジング・サプリメント」として訴求し、また、新聞、雑誌などで「プレサプリ」を中心とした商品内容を説明した広告を投入し、商品の特長のアピールを図っております。



本年3月には、運動を楽しく無理なく続けるためのサプリメントとして「クエン酸飲料」と「CoQ10」の2品、また9月には一粒で牛乳約2.2本分のカルシウム500mgと納豆約5パック分のマグネシウム250mgが摂取できる「特濃カルシウム&マグネシウム」（ソフトキャンデータイプ）を発売しました。ぜひご利用ください。

「カラダナビ」に関するお問い合わせ先
明治製菓株式会社 健康サポートダイヤル
フリーダイヤル 0120-858660
受付時間：9:00～12:00 13:00～17:00（土・日・祝除く）

「健康食品」の通信販売事業を強化

当社は、ホームページのショッピングサイトに健康食品の商品を掲載して通信販売を行ってまいりましたが、さらなる事業拡大に向けて本年7月にヘルスケアカンパニー内に専門組織を設置しました。

また、これと並行して、通信販売のみでご提供する商品をご用意いたしましたので、ぜひご利用ください。

新聞・雑誌等のマスメディアを活用した宣伝広告も高い売上の拡大を図ってまいります。

セラミド&コラーゲン

（30日分：5,600円〈税込〉）

皮膚を構成する成分であるセラミドとコラーゲンを配合した美容サプリメント。



エパライン

（30日分：5,950円〈税込〉）

EPA・DHA配合の中高年向け商品。



シュガーセーブ

（400g：1,260円〈税込〉）

オリゴ糖と難消化性デキストリンを配合したノンシュガー甘味料。カロリーを気にされる方をターゲットとした商品で、料理に使えて砂糖と変わらない美味しさが特長です。



お問い合わせ先
明治オンラインショッピングサポートセンター
フリーダイヤル 0120-860-447
受付時間：9:00～17:00（土・日・祝除く）

役員

(平成16年9月30日現在)

●取締役および監査役

代表取締役社長	北伊藤	里藤	一文	郎明
取締役副会長	佐藤	藤坪	尚昭	明忠
代表取締役社長	大高	橋口	昭和	允男
※ 取締役専任執行役員	高山	廣林	和泰	夫信
※ 取締役専任執行役員	山成	尾西	敏正	信之彦
※ 取締役専任執行役員	小松	藤内	治武	彦雄
※ 取締役専任執行役員	塚樫	西名	正義	久昭
※ 取締役専任執行役員	椎内	藤田	沼澤	隆男
※ 取締役専任執行役員	飯蓮	田沼	澤野	秀
※ 取締役専任執行役員	金狩	野		
常任監査役(常務)	監査役			
常任監査役(常務)	監査役			

(注) 上記※印の取締役は執行役員を兼任しております。

●執行役員

常務執行役員	長松	崎正	喜幸
常務執行役員	松原	弘道	幸道
常務執行役員	北森	宏史	道史
常務執行役員	柴崎	直雄	史雄
執行役員	蜂屋	巖	雄巖
執行役員	真壁	理樹	樹彦
執行役員	高溝	口秀	彦義
執行役員	大佐	藤豊	美一
執行役員	入福	江井	一雄
執行役員	横中	村文	文雄
執行役員	北村	村正	孝治
執行役員	小河	野良	良治

従業員

(平成16年9月30日現在)

従業員数	平均年齢	平均勤続年数
4,145名	39.4歳	16.8年

(注) 上記には臨時従業員は含まれておりません。

主要な事業所

(平成16年9月30日現在)

本社

東京都中央区京橋二丁目4番16号

営業所

食料／北海道統括支店（札幌）、東北統括支店（仙台）、首都圏統括支店（東京）、北関東統括支店（宇都宮）、中部統括支店（名古屋）、関西統括支店（大阪）、中四国統括支店（広島）、九州統括支店（福岡）

薬品／薬品札幌支店、薬品仙台支店、薬品東京支店、薬品横浜支店、薬品関東支店（さいたま）、薬品名古屋支店、薬品京都支店、薬品大阪支店、薬品中国支店（広島）、薬品四国支店（高松）、薬品福岡支店、農業札幌支店ほか5農業支店、動薬北日本支店（仙台）ほか3動薬支店

ヘルスケア／ヘルスケア東日本支店（東京）、ヘルスケア東海支店（名古屋）、ヘルスケア西日本支店（茨木）

工場

食料／関東工場（坂戸）、東海工場（藤枝）、大阪工場（高槻）

薬品／北上工場、小田原工場、岐阜工場（北方）、淀川工場（大阪）

研究所

食料ヘルスケア／食料健康総合研究所（坂戸）

薬品／微生物資源研究所（小田原）、創薬研究部門（横浜）、医薬開発部門（横浜ほか）、生物産業研究所（横浜）

海外事務所

ロンドン事務所、シンガポール事務所、北京事務所

(注) 1. () 内は、当該事業所が所在する都・市・町名を示しております。
2. 上記事業所のうち淀川工場は、平成16年10月31日をもって閉鎖いたしました。

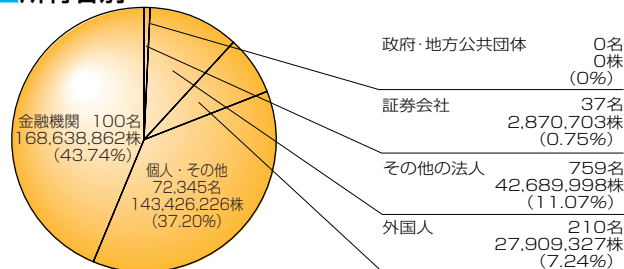
株式の状況

(平成16年9月30日現在)

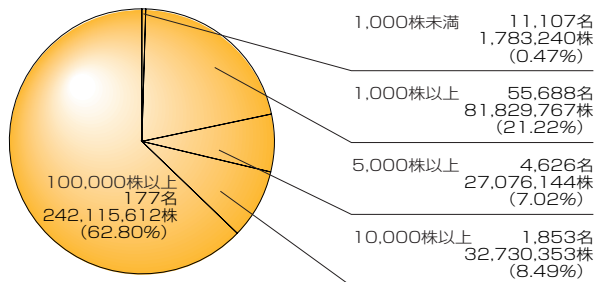
- 会社が発行する株式の総数 796,104,000株
- 発行済株式の総数 385,535,116株
- 当上半期中の名義書換件数 985件
- 当上半期中の名義書換株数 22,874,467株
- 株主数 73,451名 (前期末に比し780名減)
- 1名あたり平均持株数 5,248株
- 大株主 (上位10名)

株主名	持株数 (議決権比率)	
	千株	%
株式会社みずほ銀行	18,927	(5.00)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社信託口	17,865	(4.72)
第一生命保険相互会社	16,163	(4.27)
日本生命保険相互会社	14,707	(3.88)
日本トラスティサービス信託銀行株式会社信託口	12,342	(3.26)
富国生命保険相互会社	10,001	(2.64)
株式会社東京三菱銀行	6,804	(1.80)
東京海上火災保険株式会社	6,512	(1.72)
朝日生命保険相互会社	6,386	(1.69)
三菱信託銀行株式会社	5,482	(1.45)

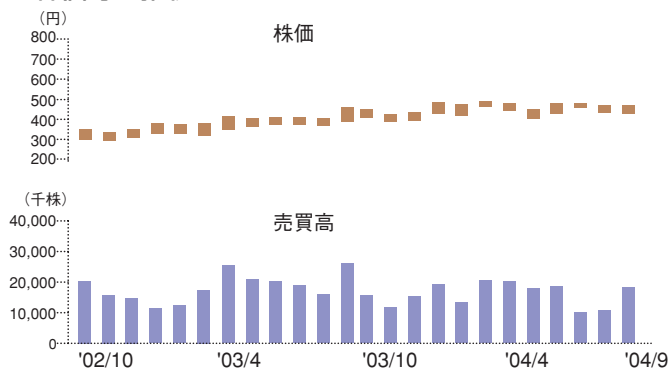
所有者別



持株数別



株価等の推移



株主メモ

決算期 3月31日

配当金受領 利益配当金 3月31日

株主確定日 中間配当金 9月30日

定時株主総会 6月下旬

公告掲載新聞 日本経済新聞

なお、第144期分より日本経済新聞に掲載する決算公告に代えて、貸借対照表および損益計算書を以下のホームページで開示しております。

<http://www.meiji.co.jp/ir/koukoku.html>

名義書換代理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱信託銀行株式会社証券代行部

(電話お問い合わせ)
郵便物送付先

〒171-8508

東京都豊島区西池袋一丁目7番7号

三菱信託銀行株式会社証券代行部

電話 0120-707-696 (フリーダイヤル)

同取次所 三菱信託銀行株式会社全国各支店

**実質株主の諸届
に関する特例**

届出の内容によって証券会社等を經由すべき場合がありますので、あらかじめお取引の証券会社等にご確認ください。

1単元の株式の数 1,000株

**単元未満株式の買取
および買増請求場所**

名義書換代理人事務取扱場所および同取次所

(証券保管振替機関に預託されている単元未満株式については、お取引の証券会社等にお申し出ください。)

《お知らせ》

- 住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取・買増請求に必要な各用紙および株式の相続手続依頼書のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル0120-86-4490で24時間承っておりますので、ご利用ください。
- 配当金を郵便貯金口座へお振り込みすることができます。お手続には振込指定書のご提出が必要となりますので、名義書換代理人に用紙をご請求ください。
- 当社は、単元未満株式の買増制度を導入しております。単元未満株式(1,000株未満の株式)をご所有の株主様は、その単元未満株式と併せて1単元(1,000株)となる数の株式の買増しを請求することができます。制度の内容および手続の詳細につきましては名義書換代理人にご照会ください。

■株主様へのご優待

3月31日現在の1,000株以上所有の株主様に対し、以下の基準で当社製品を10月中旬に贈呈いたします。

- 1,000株以上：1,500円相当
- 3,000株以上：2,000円相当
- 5,000株以上：3,000円相当



●製品は一例です(2,000円相当)

明治製菓株式会社

〈お問い合わせ先〉

〒104-8002

東京都中央区京橋二丁目4番16号

電話 (03) 3273-3353 (総務法務部)

 ホームページ (<http://www.meiji.co.jp>)



環境に配慮した「大豆油インキ」
を使用しています。



古紙配合率100%再生紙